

年占い行事

吉崎を歩く

新年を迎え、この年の良しあし、毎月の天候や農作物の豊凶などを占う「年占い行事」が続いている市内の神社があります。

代表的な神社が正月15日の松山神社の「筒粥がゆ」ですが、吉崎・星宮神社では正月3日に「お的まじ神事」が行われます。

『千葉県歴史別編 民俗Ⅰ（総論）』（1999（平成11）年3月発行）には、「県下にはオビシヤと呼ばれる正月に弓での射る行事が広くみられる」

「正月にあたりその年の豊凶を占う年占、的の鬼の字を矢で破り、ムラに悪しきものが入らぬことを願う破魔はまの二つの意味がある」と記載され、発行時、県内22例が見られるとあります。

吉崎・星宮神社のお的神事では、始めに宮司と氏子総代長（区長）が2回ずつ交代で的を、3回目は宮司が天（悪鳥）を、総代長が地（悪虫）を同時に射て豊作祈願を行うそうので、的は妙見信仰の同神社の神紋・月星つきぼしをかたどったものとされます。

2月初めの休日には同神社でこれも年占い行事の「サイコロ祭礼」が行われます。神事が一通り済んだ後の直会なまらいで、2つのサイコロを振り、出た目が丁ちやう（偶数）の時は豊年満作、家内・町内安全、半はん（奇数）だった時は浜大漁、商売繁盛とされ、終了後、サイコロとつぼは次期当番に引き継がれるという何とも珍しい年占いで、江戸時代から半農半漁だった地域性が色濃い行事です。

かつては椿・星神社、平木・星宮神社でもお的神事が行われていましたが、途絶えてしまいました。

新年にあたり伝統行事が継続されることも願うばかりです。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080



神事を終えて（藤末泰次氏提供）